

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材株式会社

コード番号 4216 URL <https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 中野 賀津也

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部長 (氏名) 浜崎 芳忠 TEL 03-5826-8820

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	35,938	22.1	5,339	114.2	5,839	121.7	3,813	112.2
2022年3月期第2四半期	29,432	23.3	2,492	206.8	2,634	229.9	1,797	191.6

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 5,442百万円 (151.0%) 2022年3月期第2四半期 2,168百万円 (181.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	199.08	—
2022年3月期第2四半期	93.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	80,407	56,648	69.8	2,927.40
2022年3月期	74,925	51,867	68.6	2,681.92

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 56,085百万円 2022年3月期 51,363百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	25.00	—	35.00	60.00
2023年3月期	—	30.00	—	—	—
2023年3月期 (予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	76,000	17.4	9,800	49.1	10,400	48.3	7,100	48.8	370.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

詳細は、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 7 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P. 7 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	19,800,400株	2022年3月期	19,800,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	641,856株	2022年3月期	648,752株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	19,155,612株	2022年3月期2Q	19,152,014株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2022年11月29日（火）に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。

その模様及び説明内容（音声）については、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
（1）四半期連結貸借対照表	4
（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
（継続企業の前提に関する注記）	7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	7
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）	7
（会計方針の変更）	7
（セグメント情報等）	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内の設備投資は、前期に引き続き半導体関連産業を中心に堅調に推移しました。海外においても、半導体関連産業を中心に設備投資需要が伸長しました。半導体デバイスについても、引き続き堅調な需要が続きました。

国内自動車生産は、上海ロックダウン解除後も継続する半導体不足の影響を受けましたが前年並みの生産台数となりました。また、国内の建設機械の生産台数は堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は35,938百万円(前年同期比+22.1%)となり、営業利益は5,339百万円(前年同期比+114.2%)、経常利益は5,839百万円(前年同期比+121.7%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、3,813百万円(前年同期比+112.2%)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① 管材システム事業

管材システム事業は、主力製品の樹脂バルブを軸に樹脂管材市場を拡大することを基本戦略としています。また、耐食問題の解決と樹脂管材の機能性を追求した製品開発によりお客様のお役に立ちに注力した営業活動を推進しています。

国内の設備投資においては、前期より景況感に変化はなく、樹脂バルブ等の基幹製品については、半導体関連の大型工事案件に支えられて販売が堅調に推移しました。樹脂配管材料等を用いたエンジニアリング事業についても堅調に推移しました。なお、高騰する原材料価格に対しては、製品価格の改定を行うなどの対応を取っております。それらの結果、国内の売上は前年を上回りました。

海外では、中国においてロックダウンの影響を受けたものの、米国、韓国において半導体関連産業をはじめとした設備投資に伴う好調な需要が継続しました。また円安の影響や製品価格の改定もあり、売上は前年を上回りました。

半導体製造装置向けのダイマトリックス製品は、日本をはじめ、韓国、台湾、中国向けの販売が伸長したことから、売上は前年を大きく上回りました。

利益面においては、人件費の増加や原材料価格高騰の影響があったものの、国内外で売上高が増加したことに加え、円安の影響もあり前年を大きく上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は22,787百万円(前年同期比+33.5%)、営業利益は5,050百万円(前年同期比+165.8%)となりました。

## ② 樹脂事業

自動車や建設機械等に必要な鋳物に用いる素形材製品は、お客様の作業環境の改善や、多様な鋳造工程に最適な製品を提案することでお客様へのお役立ちに取り組んでおります。国内においては、お客様の製造品質の向上や作業時に発生する臭気低減につながる提案と新規のお客様への営業活動を行い、海外ではお客様の製造プロセスにおける歩留まり向上など品質を高める提案活動を継続して推進したことで売上は前年を上回りました。

発泡材料製品は、現場施工により最終製品となる製品であることから、施工のしやすさに加え、吹付施工後の製品品質の向上に取り組むことで、お客様へ安心・安全を提供しています。現場発泡断熱材においては、当社の得意とするビル・マンション等の建築着工は前年に引続き堅調に推移しており、その需要を取り込むため、製品の設計折込みに注力したことや、トンネル掘削用の土木材料では、施工現場に適した製品の提案型営業活動に取り組んだことで、売上は前年を上回りました。

電子材料用途を主力製品とする高機能樹脂は、最先端の半導体に必要な電子材料の低メタル化精製技術を追求し、半導体の高度化に貢献しています。半導体の微細化に対応している国内大手レジストメーカー向けの低メタル製品に加え、レガシー半導体向けの製品の需要が引き続き堅調に推移しました。FPD用途向けの製品において需要の減速が見られましたが、半導体用途向けの販売が増えたことから売上は前年を上回りました。

利益面においては、高機能材料は前年を上回りましたが、素形材や発泡材料において引き続き高騰する原材料価格への対応が追いつかず、全体では前年を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は9,661百万円(前年同期比+10.0%)、営業利益は221百万円(前年同期比△52.0%)となりました。

## ③ 水処理・資源開発事業

水処理事業は、お客様のニーズに基づいた水資源を有効に活用できる水処理・水再生システムの設計・施工を行っています。施工中の請負工事案件の一部において、半導体等の部材不足の影響が収束せず、工事進捗の遅れが継続しました。また、前年度は大型の設備工事を行っていたこともあり売上は前年を大きく下回りました。

資源開発事業は、再生可能エネルギーである地熱発電の蒸気井などの掘削工事や温泉開発工事を行い資源の有効活用にご貢献しています。温泉設備工事において工事着工の遅れが発生したものの、地熱発電の掘削工事における大型案件が着工・進捗したことで、売上は前年を上回りました。

メンテナンス事業及び環境薬剤事業は、施設や設備の安定稼働のためのサービスや水処理薬剤を提供することでお客様へのお役立ちに注力しています。メンテナンス事業は修繕工事案件の受注が増え、それらの工事に着手できたこと、環境薬剤事業は新たに公共施設向けの案件を落札し製品の納入を始めたことから、売上は前年を上回りました。

利益面においては、売上高の減少に加え固定費が増加したことにより前年を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は3,491百万円(前年同期比△2.4%)、営業利益は22百万円(前年同期比△59.3%)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は80,407百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,482百万円増加しました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産などの流動資産の増加によるものです。負債は23,759百万円となり、前連結会計年度末に比べ701百万円増加しました。これは主に短期借入金などの流動負債の増加によるものです。純資産は56,648百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,781百万円増加しました。これは主に利益剰余金や為替換算調整勘定の増加によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2022年7月29日に公表しました業績予想を修正いたしました。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「2023年3月期第2四半期累計期間連結業績予想値と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,311	14,878
受取手形、売掛金及び契約資産	15,351	17,440
電子記録債権	4,202	4,358
棚卸資産	13,235	15,369
その他	787	1,054
貸倒引当金	△57	△58
流動資産合計	47,830	53,042
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,715	6,839
その他(純額)	11,287	11,991
有形固定資産合計	18,003	18,830
無形固定資産		
のれん	968	958
その他	1,276	1,261
無形固定資産合計	2,245	2,219
投資その他の資産		
投資有価証券	3,333	2,791
退職給付に係る資産	2,606	2,597
その他	932	951
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	6,848	6,316
固定資産合計	27,095	27,365
資産合計	74,925	80,407
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,155	5,448
電子記録債務	3,618	3,869
短期借入金	2,575	3,019
未払法人税等	1,722	2,088
その他	4,295	4,714
流動負債合計	18,365	19,138
固定負債		
長期借入金	195	231
退職給付に係る負債	1,841	1,856
株式給付引当金	54	53
役員株式給付引当金	94	131
長期前受金	617	583
その他	1,891	1,767
固定負債合計	4,693	4,621
負債合計	23,058	23,759
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,496	8,574
利益剰余金	36,861	40,001
自己株式	△1,100	△1,165
株主資本合計	49,257	52,410
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	950	580
為替換算調整勘定	1,151	3,107
退職給付に係る調整累計額	5	△12
その他の包括利益累計額合計	2,106	3,675
非支配株主持分	504	564
純資産合計	51,867	56,648
負債純資産合計	74,925	80,407

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	29,432	35,938
売上原価	19,622	22,074
売上総利益	9,810	13,864
販売費及び一般管理費	7,318	8,524
営業利益	2,492	5,339
営業外収益		
受取利息	4	9
受取配当金	54	82
為替差益	56	375
不動産賃貸料	49	49
その他	15	38
営業外収益合計	177	552
営業外費用		
支払利息	10	11
不動産賃貸費用	11	12
出資金評価損	4	8
その他	11	22
営業外費用合計	36	53
経常利益	2,634	5,839
特別利益		
固定資産売却益	10	—
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	11	—
特別損失		
固定資産除却損	24	2
固定資産売却損	4	0
投資有価証券売却損	0	—
損害補償損失	12	—
特別損失合計	40	3
税金等調整前四半期純利益	2,605	5,836
法人税等	787	2,005
四半期純利益	1,817	3,831
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	17
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,797	3,813

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,817	3,831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△168	△371
為替換算調整勘定	608	1,999
退職給付に係る調整額	△89	△17
その他の包括利益合計	351	1,611
四半期包括利益	2,168	5,442
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,145	5,382
非支配株主に係る四半期包括利益	23	60

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## I. 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,071	8,786	3,576	29,432	—	29,432
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	74	1	1	75	△75	—
計	17,145	8,787	3,576	29,507	△75	29,432
セグメント利益(営業利益)	1,900	460	54	2,414	78	2,492

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II. 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,787	9,661	3,491	35,938	—	35,938
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	78	1	1	80	△80	—
計	22,865	9,662	3,491	36,018	△80	35,938
セグメント利益(営業利益)	5,050	221	22	5,293	46	5,339

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。